

医療法人社団楽優会 札幌なかまの杜クリニックでの
就労支援・地域定着支援での工夫

札幌なかまの杜クリニック統括 看護師
SST 普及協会認定講師 村本好孝

札幌なかまの杜クリニックは、2012年10月1日にオープンした精神科心療内科のクリニックである。クリニックの成り立ちとしては、当事者として自分達の活動拠点をどのように創っていくかを話し合っていた『札幌べての集い(浦河町のべての家に触れた当事者たちが札幌で拠点づくりをしていた集まり)』があり、その話し合いの過程で「自分たちに必要な医療を自分たちで創らないと…」という声から始まった構想である。設立理念は『市民が創る市民のためのクリニック』で、設立してからのクリニックの理念は『ウエルカム』『つながり』『学び合う』として、診療、デイケア、訪問看護を行い、色々な方に関わらせてもらっている。また、当事者との協働も行い、スタッフ全体の60%のスタッフが当事者としての経験を持っているのもクリニックの特徴である。当事者と協働することで、当事者のそばにいる関りができたこと、地域で当事者が生活していくことや仕事や役割をもって暮らすことを身近に感じる事ができたと思う。その関り一つ一つが支援の内容や質が向上につながり、支援者としての学びにもなったと考えている。デイケアの活動も、心理社会的療法が全体の8割以上を占め、とにかく語り合いの多いプログラムになっている。特に『SST』『当事者研究』は中心的なプログラムで、日々の当事者研究の中で練習が必要となった場合は、SSTを勧めて当事者たちと一緒に練習機会を持っている。運営としては、地域との連携の為に、町内会への参加や市民講座や家族教室の開催、有識者会と称して地域の方々(教育分野、介護分野、就労支援などの福祉分野などなど)から「精神科クリニックに何を求めているのか」ということを教えてもらい、クリニックが何を提供したら役立つのかを意見交換するなどしている

今回は、このようなクリニックで行われている活動や学びを整理して皆さんに発表する機会をいただきました。日々の実践内容や日々考えていること、もちろん失敗や苦労話も発表させていただきたいと考えています。そして、発表を聞いた方々の意見を聞かせてもらい、今後の支援に活かしていきたいと考えています。